

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和元年8月27日から令和元年12月5日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B16021、B18014、050482	

### 2 福祉サービス事業者情報（令和元年10月現在）

事業所名： （施設名） 須坂市立 井上保育園	種別： 保育所
代表者氏名： （管理者氏名） 市長 三木 正夫 園長 中島 ひろみ	定員（利用人数）：120名（116名）
設置主体： 須坂市 経営主体： 須坂市	開設（指定）年月日： 昭和43年4月1日
所在地：〒382-0047 長野県須坂市大字幸高286-1	
電話番号： 026-245-0485	FAX番号： 026-245-0485
ホームページアドレス： <a href="https://www.city.suzaka.nagano.jp/">https://www.city.suzaka.nagano.jp/</a>	
職員数	常勤職員： 7名 非常勤職員： 21名
	（専門職の名称） 名
	・園長 1名 ・保育支援員 2名
	・園長補佐 1名 ・給食調理員 4名
	・保育士 19名 ・事務員 1名
施設・設備 の概要	（設備等） ・乳児室 … 1室 ・ほふく室 … 1室 ・保育室 … 7室 ・子育て支援室…1室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・会議室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 6室
	（屋外遊具等） ・鉄棒 ・滑り台 ・はんとろ棒 ・ジャングルジム ・タイヤとび ・砂場

### 3 理念・基本方針

○須坂市の保育理念 いのちを大切に、生きる力を育みます
--------------------------------

## ○須坂市の保育方針

- ・一人ひとりの人権や主体性を尊重しながら子どもの育ちや保護者の子育てを支えます。
- ・須坂市の豊かな自然や、伝統ある文化の中で、地域社会と連携して子どもを育てる環境づくりに努めます。
- ・豊かな愛情を持って接し、保育内容を充実させるために知識の取得と技術の向上に努めます。

## ○須坂市立井上保育園の保育理念

- ・すべての子どもが等しく、安心して預けられる保育園を目指します。
- ・一人ひとりの子どもを大切にし、発達の保障をします。

## ○須坂市立井上保育園の保育目標

### 教育：**健康な子ども**

- ・身体づくり(戸外遊び、散歩、さくらんぼリズム、柳沢プログラム)
- ・食育…(畑づくり、収穫の喜び、食育ハツラツ隊、調理の手伝い、感謝して食べる)
- ・生きていくうえで大切な基本的な生活習慣

### **思いやりのある子ども**

- ・みんな仲良し
- ・自分も仲間と一緒に大きくなる
- ・友だち同士の助け合い
- ・異年齢交流で他のクラスの友だちのことも認め、思いやれる優しさ
- ・未就児交流・小動物を飼育し生命の大切さを知る

### **意欲的に取り組む子ども**

- ・たくさんの自然に触れて遊び、変化(季節)を体感する
- ・小川のきれいな水(カニ、ザリガニ、ドジョウ、カタツムリ、サカナ、イナゴ)
- ・地域の資源に好奇心や探求心をもつ

### **言葉を豊かに使う子ども**

- ・笑顔であいさつ
- ・絵本、紙芝居、読み聞かせ
- ・色々な曲に触れ楽しく歌う
- ・人の言葉や話を聞き、自分の思いを言葉で表現する

### **創造力のある子ども**

- ・豊かな感性
- ・感じたことや思いを描いたり創造したり作ったりして表現する

**養護：**十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る

- ・一人ひとりの気持ちに寄り添い共感し、安心して過ごせるようにする
- ・やりたい気持ちを受け止め温かく見守る
- ・自主性を大切にする環境づくり

## ○須坂市立井上保育園のスローガン

- ① 命が大切と感じられる環境で
- ② のびのびと遊び
- ③ ウキウキ！ワクワク！を経験して
- ④ 笑顔いっぱいの保育園

#### 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当井上保育園は須坂市が運営する 10 園の一つで、昭和 43 年 4 月に認可を受け、平成 27 年 4 月に現在地に新築移転して今日に至り、現在 120 名の定員で運営されている。

当保育園の前身は、昭和 30 年台末まで旧井上町の各地の公会堂や神社を利用して農繁期のみ開設された季節保育園に遡ることができ、季節保育園としての最終時には井上小学校の一部を改築して活動するようになった。その後、昭和 40 年、年間を通して保育を実施し、昭和 43 年 4 月に認可保育所となった。昭和 54 年 4 月に現在の園のある東側の地区に新築移転し、平成 6 年 10 月からは 0 歳児保育を開始し、平成 27 年 4 月に現在地に竣工し現在に至っている。

当保育園は須坂市の南部に位置し、近くには上信越道の須坂長野東インターチェンジがあり、高速道から須坂市中心部に繋がる玄関口となっている。そのため交通の要衝となっており、インターチェンジ北側にはスーパーマーケットなどの商業団地と工場・卸業など産業団地があり、近年、富に交通量が増している。また、当保育園に隣接して小学校や公民館、内科医や歯科医などがあり、生活の利便性も良いことから集合住宅や戸建て住宅も増え、近い将来に向けて、高速道西側の約 37.8ha には大型商業施設と流通団地の計画があり、更に都市化が進むのではないと思われる。

また、須坂市街地から菅平高原に向かう国道 406 号線にも近く、道路沿いにはりんご、ぶどう、ももなどの果樹園も多く、小川や神社等もあり、自然にも恵まれていることから、園外保育の一環として幾つかの散歩コースがあり、四季折々の遊び場として利用している。

現在、当保育園には、0 歳児 5 名のひよこ組、1 歳児 10 名のもも組と 8 名のいちご組、2 歳児 11 名のたんぼぼ組、3 歳児 13 名のちゅうりっぷ組と 14 名のすみれ組、4 歳児 15 名のすずらん組と 16 名のゆり組、5 歳児 22 名のひまわり組などの 9 クラスがあり、それぞれの発達段階に合わせた「健康なこども」・「おもしろいのある子ども」・「意欲的に取り組むみこども」・「言葉を豊かに使う子ども」・「創造力のある子ども」という教育面の保育目標や養護面の保育目標の達成に向けて全職員が明るく快活に業務に専念している。

当保育園では、保護者のニーズに合わせ延長保育や土曜保育(3 園による拠点方式)、一時的保育(3 才以上児)、未就園児交流(集まりの日)、園開放、子育て相談、子育てセミナー、保育体験等も実施している。

延長保育は短時間保育の子どもが時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用する保護者がいる。また、一時的保育についても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的疲労解消等による預かり保育を行うサービスで、半日又は 1 日単位での実施が可能となっている。未就園児交流(集まりの日)は未就園児親子が来園し、在園児の様子を見たり交流し、子育て相談も行うサービスで年度初めと年度末を除きほぼ 1 ヶ月に 1 回、実施している。また、保育体験でも未就園児親子や現在通園している子どもの保護者に呼び掛け、子ども同士の関わりや保育士との関わりを見ていただき、育児の参考にしていただいている。

当保育園では「須坂市子ども・子育て支援事業計画」及び「2019 年度須坂市立保育園グランドデザイン」に沿い、当園としての「219 年グランドデザイン」を明確にしており、当保育園を取り巻く環境も踏まえ、「保育理念」や「保育目標・教育面」・「保育目標・養護面」を柱とし、また、「保護者支援」「交流」「職員の連携」等も加え、やりたい気持ちを受け止め温かく見守り、自主性を大切にする環境づくりに努め、子どもたちの将来に向けての基盤づくりに励んでいる。

こうした中、当保育園は 2018 年 10 月に信州やまほいく(信州自然型保育)の普及型認定を受け、園周辺のたんぼや畑のあぜ道で草花を摘んだり、通称鮎川やすぎなもの川で沢ガニ・ザリガニなどを捕まえ園で飼育している。また、隣接する小学校のグランド周りには豊富な植物が育ちそれらを観察し、同じく小学校の築山で坂登りをしたり転がったりし、冬のそり遊びも思い切り楽しんでい。更に、近くの産業団地内には須坂水辺の会が管理するビオガーデン(ビオトープ)があり、子ども達は、様々な淡水魚、水性昆虫、水性植物などを観察し、探求心を育てている。また、園には園庭と園北側に畑があり、園長が農業の先生となり、地域の農業に従事する人々の集まり「サンサンサークル」の方々の指導も受け、きゅうり・トマト・ナス・ピーマン・オクラ・すいか、じゃがいも、サツマイモなどを育て食材として昼食時に食べている。

当保育園の保護者アンケートでも「子どもの人権の尊重」、「生活の場の落ち着いた雰囲気」、「食事の充実」、「子どもの発育や意欲を促す活動・遊び」、「子どもの長所の理解と個性の尊重」などの項目に好印象を示す保護者が多く、当園の保育目標の教育面・養護面として掲げている目標にも合致しており、保育に関する専門性を有する職員が、信州やまほいくでも取り上げられている自己肯定感を育むために、一番大事な乳幼児期にどれだけ、自分の存在を認められ、自分に自信を持てる

ようになるかどうか、日々の保育の中で一番身近な大人としての役割の大切さを十分に認識し実践している。また、家庭との緊密な連携の下、地域の様々な社会資源との関係も大切にしながら、一人ひとりの子どもに関わる全ての人の協力を得ながらより良い環境の中で、職員自らが何事においても積極性を見せることで、子どもたちの主体性が自然に育つように導いている。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回は初めて
---------------	--------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

### ◇特に良いと思う点

#### 1) 園周辺の自然環境を活かした保育

新保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の「自然との関わり・生命尊重」には「自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる」としている。

「2019年井上保育園グランドデザイン」の保育目標にも「信州型自然保育・ビオガーデン」として掲げ、保育目標・教育分野の「意欲的に取り組む子ども」の中でも「たくさんの自然に触れて遊び、変化(季節)を体感する」「小川のきれいな水(カニ、ザリガニ、ドジョウ、カタツムリ、サカナ、イナゴ)」「地域の資源に好奇心や探求心をもつ」としてとり上げ、実践している。

当保育園は平成30年10月に信州型自然保育園の認定を受け、周辺には果樹園(ブドウ、リンゴ、桃)が広がり、小学校、神社、小川などもあり、スギナモ採り、どんぐり拾いなどの機会を多く取り入れ、園での活動にも収集物を使った制作や遊びを取り入れる等、たくさんの自然にふれつつ遊び、季節の変化を体感している。また、戸外遊びとして散歩に出かける機会を多く取り入れており、隣接している小学校へは頻繁に出掛け、異年齢児と一緒に出かけ、築山などで全身を動かして遊ぶ子どもたちの姿を園から見ることができ、異年齢児との交流、遊びを通し、学びや思いやりの心を育てている。

更に、近くの産業団地内には須坂水の会が管理するビオガーデン(ビオトープ)があり、メダカの放流やホタルの養殖に取り組んでおり、実際ホタルの飛来が確認され、子どもたちはアメリカザリガニを釣り、園に持ち帰り、県外の団体から寄贈されたウーパールーパーとともに園で飼育し成長を観察している。そのビオガーデンの敷地内ではどんぐりの木が実を落とし根元に小さな芽を出し、ブルーベリーが実を付け、また、アンパンマン型の池ではカルガモの抱卵なども確認でき、子ども達の探求心を育てている。

当保育園の子ども達は身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもち、身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れることで、知らず知らずのうちに、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにしており、職員も熱心に支援している。

#### 2) 野菜の栽培、収穫を通じた食育

須坂市では保育園給食のねらいとして「バランスのよい食事で健やかな成長や健康の増進をはかります」「さまざまな味との出会いで、味覚を育てます」「友だちとのかかわりのなかで、食事のマナーや望ましい食習慣を身につけます」「みんなと一緒に楽しい食事を通して、豊かな心を育てます」としており、食育を「毎日の園生活に根づいたもの」と位置づけ、子どもの健全な心身の成長のため、様々な食に関わる体験から「食」についての興味を広げ、食べる意欲を育てている。

具体的には栄養士による食育指導、給食担当者との給食サンプル展示などを行い、食につい

ての情報を発信し、栽培活動や収穫体験を行いつついのちの大切さや食べ物に対する感謝の心を育て、親子クッキング・給食の手伝い等の調理活動を通して食事を作ってくれる人への感謝の気持ちや調理への興味を広げ、祖父母など異世代との交流活動を通し伝統食・郷土料理など食文化について知る機会を設け実践している。

当保育園の園庭の一角や園舎北側には畑が広がり、園長が率先して子ども達に苗植えなどの農業指導をし、「サンサンサークル」という地域の方々の指導も受け、畑づくりから収穫まで子ども達が体験できる貴重な機会を設けている。じゃがいも、ミニトマト、キュウリ、オクラ、スイカ等、様々な野菜を植え、生長を観察し収穫の喜びを味わっている。収穫物はそれぞれの野菜の収穫表に毎日採れた数を子どもたちが記入し、給食にも取り入れ、園児が下ごしらえなどで関わり、採れた食材を使用したメニューの時には子ども達が放送でお知らせをしたりして全園児で味わい、感謝しながらいただき、食べること・食べるものについて興味をもてる食育活動につなげている。また、栽培時や給食時間でも異年齢交流を行っている。

献立は市の公立保育園として統一のサイクルメニューとし、苦手なものにも挑戦する機会をつくり食べる意欲を育てており、ライフスタイルの変化などを理由に生じたさまざまな「食」の問題を解決するため、2005年に成立した食育基本法によって定義として定められ、「食育は『生きる上での基本』とされており、人間の心身が健やかに成長するための土台である」に沿い「お腹がすくリズムのもてる子ども」「食べたいもの、好きなものが増える子ども」「一緒に食べたい人がいる子ども」「食事づくり、準備にかかわる子ども」「食べものを話題にする子ども」という理想像を目指し日々の活動を行っている。

### 3) 地域の人々との交流と支援

保育園には子どもたちの将来を見通し、子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮することが求められており、その際、家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、高齢者や異年齢の子ども等を含む人材、行事、施設等の地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実を図るように配慮することも求められている。

2015年度から2019年度までの「須坂市子ども・子育て支援事業計画」の中でも「子どもは宝プロジェクト」として文書化し、「地域の子どもは、地域で育てる」、「子どもを産み、育てやすいまち」を目指し、家庭、地域、団体、企業、行政が連携しそれぞれできることを行っていく必要があることを謳っている。

それに沿い当保育園でも地域の保育に関する子育てセミナーやイベントのチラシなどを掲示したり、育児相談、ファミリーサポートなどについてもポスターを張り出している。世代間交流として地域の老人会とのいきいき交流で高齢者の方と歌、肩たたき、手遊びなどでふれあい、また、祖父母参観等での交流なども定期的に行われ、ピオガーデンの運営に関わる「須坂水辺の会」の会員等とも交流している。また、地域の農家で構成する「サンサンサークル」の人々の協力を得て、園庭の一角や園の北側の畑で野菜作りの指導を受け、焼き芋大会などで共に収穫を祝っている。散歩コースは年齢に応じていくつかのコースがありその途中で地域の人々と挨拶を交わしたり、畑で働く地域の人々とも自然にふれあい、作業の内容について説明を受けたりしている。更に、地域の役員などを運動会やクリスマス会などに招待したり、園開放、年長クラスの子ども達と小学生との交流、中学生の職場体験やボランティア活動の受け入れなども行っており、地域の子育て力の向上に繋がるように取り組んでいる。

今般の台風19号の際にも当保育園は地域の準避難所として機能し、その際、園長は他の公立保育園園長とともに、小さな子どもを抱えた母親なども含めた避難住民のサポートを行った。

当保育園では地区の住環境が変化し集合住宅や戸建て住宅が増える中、地域の実情を踏まえ、園として育児についての相談を受けたり、子育て支援センター、児童クラブ、保健センター、就学前児童療育施設などと連携したり、幼・保・小連絡会議、保育士による小学1年生授業参観などに職員が出席し、地域の関係機関等との積極的な連携及び協働を図るとともに、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図るよう努めている。

### 4) 保護者と連携した保育

新保育所保育指針では「保護者との相互理解」として「日常の保育に関連した様々な機会を

活用し子どもの日々の様子の伝達や収集、保育所保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努めること」「保育の活動に対する保護者の積極的な参加は、保護者の子育てを自ら実践する力の向上に寄与することから、これを促すこと」としており、須坂市公立保育園の「2019年度須坂市立保育園のグランドデザイン」及び「2019年度井上保育園グランドデザイン」の中でも「保護者支援」として「保護者とのコミュニケーション」「保育参加」「育児相談」「個別懇談」などが上げられ、実践している。

保育園と保護者との関係性について海外に目を向けると、日本とは大きく異なる状況が見えており、保護者の参画が保育の質を向上させる重要な要素として改めて注目を浴びている。

当保育園では参観日の他、誕生日に合わせてプレゼントとして絵本の読み聞かせを親が行う、お父さん先生・お母さん先生になり半日保育室で保育に参加する、子供と一緒に活動する保護者参加の日を設けるなど、園内で保護者が主体的に活動できる場を作り、園の様子を知り、理解、連携できる機会を設けている。

保護者によって家庭や仕事の事情が違うので、できることは異なり、園に望む距離感もさまざまではないかと思われ、園から一律にお願いをすると負担を感じる保護者もいることから、できるだけ保護者が望む関わり方ができるようにと職員は心掛けている。そうしたことも踏まえ、ふだんから保育内容について丁寧に伝え、自然な形で保護者が参加できる状態をつくることが理想と考え、子ども達の成長を共に喜び合える関係づくりに職員が懸命に取り組んでいる。

## 改善する必要があると思う点

### 1) 理念や基本方針の保護者への更なる周知

当保育園の運営主体である須坂市では平成27年度から平成31年度までの「須坂市子ども・子育て支援事業計画」が推進されており、「子どもは`宝`プロジェクト」としてビジョンが明確にされており、それに沿い「2019年度須坂市立保育園のグランドデザイン」が策定され、保育園の目的、地域における存在意義、使命や役割等を明確にした保育理念泳ぎ基本方針が明確にされている。また、「2019年井上保育園グランドデザイン」が市の理念や方針に連動し明示されている。

福祉サービスを提供する保育園（法人）の理念については、子どもの人権の尊重や個人の尊厳に関わる姿勢が明確にされていることが重要であり、保育園（法人）における事業経営や保育の拠り所であり、基本の考えとなるものであるといわれている。また、保育園（法人）のめざすべき方向性を内外に示すものでもあり、理念に基づいて保育園の子どもと保護者に対する姿勢や地域との関わり方、あるいは保育園が持つ機能等を具体的に示す重要なものであるとも言われている。

理念や基本方針は、保育園の保育に対する考え方や姿勢を示すもので、職員に限らず、保護者等、さらには地域住民や保健所、医療機関、幼稚園・小・中学校、保育士養成施設、子育て支援団体等の関係機関にも広く周知することが必要ではないかと思われる。

当保育園のグランドデザインには保育理念や子どもの発達過程に応じた独自の「教育」・「養護」それぞれの面からの分かりやすい保育目標があり、「健康な子ども」「思いやりのある子ども」「意欲的に取り組む子ども」「言葉を豊かに使う子ども」「創造力のある子ども」を掲げ、それぞれに具体的なコンセプトが付記されている。

市及び当保育園のグランドデザインは当保育園の事務室や各クラスに掲示されており来訪者にもわかり易いようになっているが、保護者アンケートの結果では保育園の基本的な考え方(保育目標・保育方針)が保護者に十分浸透していないのではないかとと思われる。

今後、保育に対する安心感や信頼を高めることにもつながるものと思われるので、保育に関連した様々な機会を活用し、子どもの日々の様子の伝達や収集、保育所保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努め、保護者や地域の人々に対して理念や基本方針を更に周知されていくことを期待したい。

### 2) 更なる事故防止及び安全対策の推進

当保育園では保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ、施設内外の

安全点検に努め、「教育、保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」を基に、安全対策のための全職員の共通理解や体制づくりを図るとともに交通安全指導計画でも街頭指導や安全指導と並行して家庭や地域の関係機関の協力の下、親子交通安全教室を開催し、安全へ備えている。

また、公立保育園で発生したヒヤリハット事例については毎週行われる職員会議の中で定期的（月1回）に話し合い、再発防止に努め、市の園長補佐会の危機管理グループで公立保育園におけるヒヤリハット事例集を基に要因分析、改善策などを検討し具体的に取り組んでいる。

更に、危機管理マニュアルと園の消防計画があり災害時の対応体制が定められ、重要事項説明書に「非常災害対策」と位置づけ、「災害時の体制、風水害や火災発生予測時における保育所での対応方針」を基に毎月想定を変えて、子どもと達と一緒に訓練を行っている。訓練の中には外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など、不測の事態に備えた必要な訓練も行っており、施設内外の危険箇所の点検なども実施している。

今般の台風19号を始め、今まで想定外と思われていた自然災害が身近に、また、現実となっていることから、単なる火災のみの避難訓練や地震から始まる火災、二次避難まで想定した避難訓練等だけでなく、「想定外を想定する」ことを前提に、まず想定外とはどのような状況なのかを保育園として検討し、それに沿い保育園での避難訓練をイメージし、保育園として最善を尽くせる環境、判断基準を再構築されることを期待したい。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（令和元年12月 4日記載）

園長・保育士が多岐にわたるアンケートを答える中で、保育園運営の要点や課題・保育園や保育について確認したり、振り返ったりすることができた。今まで、重要とっていなかった点も、子供たちの育ちや、保育に密接に関係していると感じた。

面談を通して、保育園や保育について説明する中で、言語化をし、自分たちが目指していることなどを再確認することができたり、振り返りをする機会になったり、思わぬ発見や反省の場となった。井上保育園の良さや課題を職員間で共有し、より良い保育園を目指したい。

今回保護者の方にアンケートを記入していただき、日ごろ感じていることを知ることができ、良い機会になった。お忙しいところ、ありがたい事と思う。ランドデザインや保育理念などは、保護者総会で説明をしているが、より分かりやすい説明を工夫し、保育内容に関しても、定期的に行われている行事でも、丁寧な説明を心掛けたい。

アンケートの“いいえ”や“わからない”の回答を受け止め、ご意見や提言の説明の機会を計画したい。

台風19号などの想定外を想定した避難の方法をイメージした保育園としての最善を尽くせる環境を保育園全体で考えていきたい。